

# 石巻圏域園芸特産振興戦略プラン

令和3年1月

(令和4年3月一部改定)

## 目 次

|          |               |    |
|----------|---------------|----|
| 1        | 石巻圏域の園芸特産振興方向 | 2  |
| 2        | 品目別アクションプラン   | 6  |
| (1) 野 菜  |               |    |
|          | い ち ご         | 7  |
|          | き ゆ う り       | 10 |
|          | ト マ ト         | 12 |
|          | ほ う れ ん そ う   | 15 |
|          | パ プ リ カ       | 17 |
|          | ね ぎ 類         | 19 |
|          | え だ ま め       | 22 |
|          | ば れ い し よ     | 24 |
|          | せ り           | 26 |
|          | ス イ ー ト コ ー ン | 28 |
|          | は く さ い       | 30 |
|          | ち ぢ み ゆ き 菜   | 32 |
|          | さ つ ま い も     | 34 |
|          | ア ス パ ラ ガ ス   | 36 |
| (2) 花 き  |               |    |
|          | 輪 ぎ く         | 38 |
|          | 鉢もの類・花壇用苗もの類  | 40 |
|          | ガ ー ベ ラ       | 42 |
| (3) 果 樹  |               |    |
|          | ぶ ど う         | 44 |
|          | い ち じ く       | 46 |
| (4) 特用林産 |               |    |
|          | し い た け       | 48 |

# 石巻圏域の園芸特産振興方向

## 1 園芸特産の現状と課題

### (共通)

東日本大震災により管内の園芸産地は甚大な被害を受けましたが、国の交付金事業等により園芸施設の復旧・建設が進み、平成29年3月には園芸施設の100%、27.92haが復旧しました。販売額も平成30年度のJAいしのまき園芸品目取扱実績が28億円(共販+直売)に達し、震災前と同程度まで回復しています。

特徴的な取組として、県内有数の生産を誇るトマト、きゅうり、いちごについては、石巻市須江及び蛇田地区に園芸団地が整備され、パプリカについても次世代型の栽培が実証されるなど、大規模園芸経営体を中心に生産が順調に拡大しています。また、環境制御技術やIPM技術の導入による収量向上等への取組も進められています。

担い手の状況については、年間販売額5千万円以上の先進園芸経営体は19経営体で、管内園芸生産を牽引していますが、新たな環境制御技術や養液栽培技術の普及、定着及び経営体の安定経営に向けた支援が必要です。

### (野菜)

石巻市及び東松島市は、トマト(夏秋)、きゅうり(冬春)、ねぎ(秋冬)の指定産地になっています。いちご、こねぎ、せりは県内で主要な産地となっており、ほうれんそう、長ねぎも1億円以上の産出額となっています。特に「河北せり」は令和2年12月に県産青果物として初の地理的表示(GI)保護制度登録となり、今後産地ブランドを活かし、販売力の強化を図る必要があります。

東日本大震災後、石巻圏域では多くの法人が設立され、大規模化が進んでいます。また、復興関連事業により大型の栽培施設が多数導入されるなど園芸団地が形成されました。特に、石巻市北上地区ではパプリカ及びトマトを生産する大規模な次世代型の園芸施設が建設され、平成28年から出荷が開始されました。

さらに、水田における大規模露地野菜の取組として加工・業務用向けばれいしょの栽培が始まっており、機械化体系による生産が行われています。

一方、従来からの個別経営体では、パイプハウスの多くが老朽化しているものの更新は進んでおらず、また、いずれの品目においても栽培者の高齢化が進行し、後継者も不足しています。

近年は、農林産物直売施設や大型スーパーのインショップなどの販売実績が増加傾向にあり、需要の細かな変化に対応できる少量多品目の生産に取組む経営体も増加しています。

### (花き)

石巻圏域における花きの産出額は約4億円で、石巻市河北・河南地区及び東松島市矢本地区では輪ぎくが、東松島市鳴瀬地区ではスプレーぎくが生産されています。河北地区では、平成26年度から法人による輪ぎく等の生産が行われています。

また、石巻市桃生地区では養液栽培によりガーベラを周年生産しており、東北一の産地となっています。

鉢ものの類等は、鳴瀬地区の法人や桃生・河南地区の個別農家によるシクラメンを中心として、花壇用苗ものを含めた産地化が図られています。

原油高騰による資材費及び暖房費等が増加している一方、販売単価も低迷していることから、収益性の向上が求められています。

### (果樹)

東松島市矢本地区や石巻市河南地区でぶどうの施設栽培が行われていますが、規模は小さく、個別販売となっています。他方、ここ数年、農協による取組もあり小規模ではありますが、育苗ハウス等で「シャインマスカット」を中心とした新植の動きが見られます。

ブルーベリー等の小果樹については、数戸で栽培されていますが規模は小さく、新規栽培者の掘り起こしが必要となっています。

東松島市宮戸地区では、津波被災から復旧する農地に平成28年度からいちじく、もも、かきが約3ha植栽され、平成29年に初収穫を迎えています。

平成26年度から石巻市で市事業によりオリーブの栽培試験が行われており、平成30年春現在で約4.8ha植栽され、現地適応性等についての検討を行っています。

(特用林産物)

石巻圏域における平成30年度の栽培きのこ生産量は約19t、うちしいたけが68% (約13t) となっています。そのうち、石巻市では原木・菌床しいたけや菌床まいたけ等の施設栽培が行われており、東松島市では菌床しいたけ、きくらげ等の施設栽培が行われています。

原木しいたけについては、東北電力(株)福島第一原発事故による放射性物質汚染の影響で露地栽培の出荷が制限された結果、生産者が大幅に減少し、現在は2戸のみですが、うち1戸は令和2年7月に出荷制限が解除されました。今後も、引き続き安全な他県産原木の安定確保及び自県産原木の使用再開、放射性物質対策作業マニュアルに基づいた生産等により、出荷制限解除に向けた取組を進め、産地の再生を図る必要があります。

菌床しいたけについては、放射性物質に汚染されていない菌床生産資材(オガ粉等)の安定確保による経営の安定化と品質向上による収益確保を図る必要があります。

[重点振興品目の生産の現状]

| 区分 | 品目名     | 作付面積 (ha) | 収穫量 (t, 千本(鉢)) | 産出額 (千円) | 区分   | 品目名   | 作付面積 (ha) | 収穫量 (t, 千本(鉢)) | 産出額 (千円) |
|----|---------|-----------|----------------|----------|------|---|-----------|----------------|----------|
| 野菜 | いちご     | 11.2      | 387.6          | 43.8     | 花き   | 輪ぎく   | 6.2       | 1,701          | 11.8     |
|    | きゅうり    | 30.9      | 1634.0         | 47.6     |      | 鉢もの類・花壇用苗もの類  | 2.7       | 1,520          | 11.1     |
|    | トマト     | 24.5      | 1052.2         | 46.2     |      | ガーベラ  | 1.1       | 4,239          | 9.3      |
|    | ほうれんそう  | 24.1      | 210.7          | 11.8     |      | 果樹  | ぶどう       | 4.2            | 8.2      |
|    | パプリカ    | 1.3       | 299.0          | 14.0     | いちじく |   | 10.7      | 20.0           | 0.7      |
|    | ねぎ類     | 47.1      | 893.3          | 42.2     | 特用林産 | しいたけ  |           | 12.1           | 1.2      |
|    | えだまめ    | 4.6       | 16.1           | 0.9      |      | ※ 野菜:「H30農協販売実績」、花き:「H30花き産業振興総合調査」、果樹:「H30特産果樹生産動態等調査」、特用林産:「H30特用林産物需給動態調査」 |           |                |          |
|    | ばれいしょ   | 10.0      | 298.0          | 1.3      |      |   |           |                |          |
|    | せり      | 5.3       | 81.0           | 10.9     |      |   |           |                |          |
|    | スイートコーン | 13.9      | 70.5           | 1.6      |      |   |           |                |          |
|    | はくさい    | 8.2       | 153.0          | 1.2      |      |   |           |                |          |
|    | ちぢみゆきな  | 2.7       | 35.8           | 1.0      |      |   |           |                |          |
|    | さつまいも   | 0.0       | 0.0            | 0.0      |      |   |           |                |          |
|    | アスパラガス  | 0.02      | 0.002          | 0.0004   |      |   |           |                |          |

2 園芸特産振興の方向性

- ・将来の園芸生産の中核となる雇用型農業法人の経営の安定と地域への定着
- ・コスト低減技術の確立による収益性の向上と経営の高度化
- ・生産工程管理の強化による事故防止と消費者からの信頼醸成
- ・農協と法人との連携による有利販売に向けた検討
- ・水田等における加工・業務用野菜産地の拡大
- ・環境制御技術等の活用による生産性と品質の向上

### 3 重点振興品目 20品目(内訳 野菜14、花き3、果樹2、特用林産1)

(1) 県戦略品目 13品目(内訳 野菜9、花き2、果樹1、特用林産1)

| 区分   | 品目名              | 振興方向  |
|------|------------------|---|
| 野菜   | いちご              | いちごの生産振興及び収量安定化<br>良品質・安定生産に向けた技術の確立、ニーズに応じた販売力の強化                      |
|      | きゅうり             | 安定供給体制の強化による産地の維持・拡充と先端技術の定着<br>生産力と品質を高める栽培技術の高度化                      |
|      | トマト              | 施設園芸栽培の強化による産地の育成<br>生産力と品質を高める技術の高度化、安全・安心確保の推進                        |
|      | ほうれんそう           | 地域周年生産体制による供給力の強化<br>生産力と品質を高める技術の高度化、安全確保の推進                           |
|      | パプリカ             | 需要に対応した生産体制の整備と経営の安定化<br>高度な環境制御による生産力向上と高品質化、多様な需要に対応した販売力の強化          |
|      | ねぎ類              | 機械化・省力化の推進と生産技術の高位平準化<br>安定的な周年出荷に向けた技術力向上、販売チャネルの拡大推進                  |
|      | えだまめ             | 「伊達な茶豆」ブランドを活用した産地の発展<br>水田における作付推進、情報共有による販売体制整備                       |
|      | ばれいしょ            | 水田を利用した加工用ばれいしょの生産振興<br>ほ場整備を活かした輪作体系による持続的な安定生産技術の推進                   |
|      | せり               | 「河北せり」の高品質生産による産地ブランドの強化<br>地域特産野菜として市場の要求に応えられる生産力の強化                  |
| 花き   | 輪ぎく              | 高品質で安定した生産体制の整備<br>経営の効率化と産地の維持、直売や契約販売等多様な需要に対応した販売力の強化                |
|      | 鉢もの類・<br>花壇用苗もの類 | 消費者ニーズに対応した品目の導入と品質の安定化による生産体制の確立<br>経営感覚に優れた担い手の確保、多様な需要に対応した販売力の強化    |
| 果樹   | ぶどう              | 直売所出荷を中心としたぶどうの生産拡大<br>新規就農者の掘り起こし及び産地化の推進                              |
| 特用林産 | しいたけ             | 高品質安定生産による産地の維持と地位向上<br>出荷制限解除に向けた試験栽培と協議会設立、安全な生産資材の確保と品質向上に向けた生産管理の徹底 |

(2)地域戦略品目 7品目(内訳 野菜5、花き1、果樹1)

| 区分 | 品目名     | 振興方向  |
|----|---------|---|
|    |         | 具体的振興方策   |
| 野菜 | スイートコーン | 高品質・安定供給体制確立による産地の維持・拡充<br>病虫害防除等栽培技術指導の継続的な実施                    |
|    | はくさい    | 「仙台白菜」の供給地としてブランド定着<br>安定した品質、収量の確保と県内向けプロモーション活動                 |
|    | ちぢみゆき菜  | 高品質生産による産地の維持・発展<br>栽培技術の平準化による品質向上                               |
|    | さつまいも   | 生産性の向上による産地確立と販路拡大<br>機械化体系の導入定着                                  |
|    | アスパラガス  | 直売等を中心とした新たな地域特産野菜の育成<br>採りっさり栽培やハウス立茎栽培を組み合わせた生産体制の確立            |
| 花き | ガーベラ    | 需要動向に対応した品種構成による産地競争力の高位安定化<br>ほ場環境に合った高生産性品種の選定と全国産地と連携した販売戦略の展開 |
| 果樹 | いちじく    | 栽培技術の向上と立地条件を活かした地域振興への貢献<br>新植面積の拡大に向けた誘導と基本的な栽培技術向上の支援          |

# 品目別アクションプラン

## — 野 菜 —

い ち ご  
き ゆ う り  
ト マ ト  
ほ う れ ん そ う  
パ プ リ カ  
ね ぎ 類  
え だ ま め  
ば れ い し よ  
せ り  
ス イ ー ト コ ー ン  
は く さ い  
ち ぢ み ゆ き 菜  
さ つ ま い も  
ア ス パ ラ ガ ス

## — 花 き —

輪 ぎ く  
鉢もの類・花壇用苗もの類  
ガ ー ベ ラ

## — 果 樹 —

ぶ ど う  
い ち じ く

## — 特用林産 —

し い た け

## 【いちご】

### いちごの生産振興および収量安定化

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 11.2           | 11.2   | 12.3         | 12.3          | 1.1          |
| 出荷量 (t)   | 387.6          | 467.2  | 598.6        | 674.6         | 1.7          |
| 産出額 (千万円) | 43.8           | 57.6   | 73.9         | 83.2          | 1.9          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・東日本震災によって作付面積が減少したが、園芸団地の整備などにより震災前の90%まで面積が回復している。
- ・生産者数は微増しており、若い生産者の就農の他、農業法人の参入が目立つ。
- ・各種補助事業を活用した高設養液栽培への転換のほか、環境制御技術の導入が始まっている。
- ・夜冷施設の整備が進み、11月中旬以降からの出荷をねらう超促成栽培を行う生産者が増えている。
- ・「とちおとめ」「紅ほっぺ」「もういっこ」が主力品種である。
- ・県育成品種「にこにこベリー」が昨年度より本格デビューし、品種特性に合わせた栽培が始まり、作付面積は増加傾向にある。

##### ○流通・販売面

- ・販売は農協系統出荷が大半を占めており、仙台、石巻市場を中心に、東京方面や秋田市場へも出荷している。
- ・一方、農業法人等の経営規模が比較的大きい生産者においては、直売のほか契約取引への取組が増えてきている。

##### ○課題等

- ・奇形果・小玉果の発生や着果の「中休み」現象によって、出荷量の変動が大きい。
- ・震災後に導入した高設栽培で、ヤシガラ培地の劣化によるpHの低下が散見される。
- ・育苗期における病害によって、良苗の生産が不安定である。
- ・大規模施設の整備による、栽培環境の変化に対する技術面での対応が追いついていない。
- ・出荷盛期における収穫・調製作業と栽培管理作業との競合が課題となっている。
- ・各地区の部会ごとに出荷先や規格が異なっているため、石巻圏域としての統一した産地イメージがない。
- ・市場流通が主流のため、価格の変動の影響が大きい。



### 3 具体的振興策

- 優良品種による産地競争力確保
- 良品質, 安定生産に向けた技術の確立
- 作業手順の簡略化およびマニュアル化
- 地域連携による生産活動推進
- ニーズに応じた販売力の強化

### 4 主な担い手(部会)等

- 石巻市苺栽培組合
- 河南いちご部会
- やもといちご生産組合
- 株式会社いちごランド石巻
- 株式会社イグナルファーム
- 株式会社アグリ・パレット
- 株式会社サンエイト

### 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                    |   |
|--------|--------------------|---|
| 生産・技術面 | 「にこにこベリー」の生産振興     | 小苗の増殖率が高く, 玉揃いのよい県育成品種「にこにこベリー」の生産振興  |
|        | 良品質, 安定生産に向けた技術の確立 | 炭そ病対策, 萎黄病対策等の採苗・育苗における適正管理の徹底<br>施設設備を最大限活用する環境制御技術の導入による収量の増大・安定化             |
|        | 作業手順の簡略化・マニュアル化    | 大玉果におけるフラットパックの活用促進による調製作業の簡素化<br>パート作業員に対する技術研修会の実施や, 手順のマニュアル作成による日常作業技術力の平準化 |
| 流通・販売面 | 地域連携による生産活動推進      | 旧市町の枠を越えた「いしのまきブランド」の確立   |
|        | ニーズに応じた販売力の強化      | 契約取引や加工・業務用いちごへの拡大の推進と支援  |

表1 主な作型と栽培品種・月別農協出荷実績 (H30年度)

◎親株定植 ●採苗 ▲定植 ■収穫

| 作型           | 主な品種名   | 月  |    |    |    |    |    |   |   |   |    |    |    |
|--------------|---------|----|----|----|----|----|----|---|---|---|----|----|----|
|              |         | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 夜冷育苗<br>促成栽培 | とちおとめ   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |    |    |    |
|              | 紅ほっぺ    |    |    | ◎  |    |    |    | ● |   | ▲ |    | ■  |    |
|              | もういっこ   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |    |    |    |
|              | にこにこベリー |    |    |    |    |    |    |   |   |   |    |    |    |
| 促成栽培         | とちおとめ   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |    |    |    |
|              | 紅ほっぺ    |    |    | ◎  |    |    |    | ● |   | ▲ |    | ■  |    |
|              | もういっこ   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |    |    |    |
|              | にこにこベリー |    |    |    |    |    |    |   |   |   |    |    |    |
| 出荷量(t)       | 388     | 43 | 55 | 84 | 82 | 65 | 14 | - | - | - | -  | 11 | 34 |

## 【きゅうり】

### 安定供給体制の強化による産地の維持・拡充と先端技術の定着

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 30.9           | 30.9   | 30.9         | 30.9          | 1.0          |
| 出荷量 (t)   | 1634.0         | 1797.4 | 1797.4       | 1960.8        | 1.2          |
| 産出額 (千万円) | 47.6           | 54.1   | 54.1         | 59.0          | 1.2          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・野菜生産出荷安定法の指定産地となっており、種別は「冬春」である。
- ・施設による半促成、抑制の年2作体系での栽培が多く、石巻圏域の野菜販売額上位の品目である。
- ・東日本大震災後に設立された複数の雇用型農業生産法人がきゅうりの生産に取り組んでいる。
- ・令和2年度の作付経営体数は促成 66 戸、夏秋 16 戸、抑制 60 戸となっている。
- ・令和2年に炭酸ガス局所施用装置を導入した法人がある。(地球に優しい施設園芸推進事業)

##### ○流通・販売面

- ・販売は農協の系統出荷が大半を占めており、県内市場を中心に東北各県や京浜市場へも出荷している。
- ・部会としての出荷はなく、各地域の生産組合がそれぞれの規格・販売経路で出荷している。

##### ○課題等

- ・生産者の大半は個人生産者であり、高齢化による離農など生産者の減少が進んでいる。
- ・購入苗の増加など作業体系の簡素化を行っているが、高齢化に伴う管理作業の遅れや作型の変化も見られ、生産量の減少につながっている。
- ・ホモブシス根腐病やネコブセンチュウによる被害が問題となっている。

#### 3 具体的振興策

- 生産力と品質を高める栽培技術の高度化
- 省力化技術の検討と推進
- 新規参入者の確保と生産力安定化
- 契約取引の推進検討
- 先端技術を導入した生産者に対する技術支援

#### 4 主な担い手(部会)等

○いしのまき農業協同組合きゅうり部会

- ・石巻市きゅうり生産組合
- ・やもとハウス園芸組合
- ・河南ハウス園芸組合
- ・JAいしのまき鳴瀬野菜部会

○株式会社イグナルファーム

#### 5 具体的取り組み内容

| 項目     |  |  |
|--------|--|--|
| 生産・技術面 | 生産力と品質を高める栽培技術の高度化   | 栽培技術, 病害虫対策技術研修会等の開催<br>ホモプシス根腐病, ウィルス病等の難防除病害対策の支援<br>CO2局所施用等先端技術導入者に対する技術支援 |
|        | 省力化技術の検討と推進  | 作業受託や共同調製施設の導入など, 生産者の省力化に繋がる技術の整備, 推進の検討                                      |
|        | 新規参入者の確保と生産力安定化  | 新規参入者, 雇用労働者を対象とした基礎的な栽培技術指導<br>研修生の受入れ体制整備の支援                                 |
|        | 流通・販売面   | 統一部会活動による販売体制の整備<br>契約取引の推進検討  |
| 流通・販売面 | 実需者のニーズに応じた共同販売体制の実現に向けた周辺環境の整備<br>安定した経営を確保するための契約取引の充実支援 |  |

表1 主な作型と栽培品種・月別農協出荷実績(H30年度)

●播種 ▲定植 ■収穫

| 作型     | 主な品種名                    | 月 |   |     |     |     |     |    |    |     |     |     |    |
|--------|--------------------------|---|---|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|
|        |                          | 1 | 2 | 3   | 4   | 5   | 6   | 7  | 8  | 9   | 10  | 11  | 12 |
| 半促成栽培  | 極光607, ニーナ, ニーナZ, 兼備等    |   | ▲ | ■   |     |     |     |    |    |     |     |     | ●  |
| 夏秋栽培   | はやか, 兼備, 四川他             |   |   |     |     | ●   | ▲   | ■  |    |     |     |     |    |
| 抑制栽培   | ニーナ, ニーナZ, まりん, 勇翔, はやか等 |   |   |     |     |     |     | ●  | ▲  | ■   |     |     | ■  |
| 出荷量(t) | 1,634                    | 1 | 5 | 105 | 236 | 347 | 308 | 89 | 50 | 172 | 198 | 107 | 16 |

## 【トマト】

### 施設園芸栽培の強化による産地の育成

#### 1 年次別推進目標

| 項目          | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-------------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha)   | 24.5           | 26.9   | 26.9         | 26.9          | 1.1          |
| 出荷量 (t)     | 1052.2         | 1328.6 | 1489.0       | 1540.6        | 1.5          |
| うち 大玉・中玉トマト | 718.2          | 932.4  | 1036.3       | 1087.9        | 1.5          |
| うち ミニトマト    | 334.0          | 396.2  | 452.7        | 452.7         | 1.4          |
| 産出額 (千万円)   | 46.2           | 51.5   | 57.8         | 59.8          | 1.3          |
| うち 大玉・中玉トマト | 25.2           | 27.4   | 30.2         | 32.1          | 1.3          |
| うち ミニトマト    | 21.0           | 24.1   | 27.6         | 27.7          | 1.3          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・野菜生産出荷安定法の指定産地となっており、種別は「夏秋」である。
- ・大玉トマト(中玉を含む)、ミニトマトともに販売額は県内第1位の産地である。
- ・大玉トマトは石巻、矢本、河南地区を中心に生産されている。ミニトマトは桃生地区、河北地区を中心に栽培が行われており、法人では若い後継者も見受けられるが、全体的に高齢化が進んでいる。
- ・東日本大震災後は法人を中心に大型養液栽培施設の導入が進んでおり、長期栽培の作型が増加している。
- ・トマト需要の多様化により中玉トマトやミニトマトの作付が増加傾向にあり、近年ではカラフルミニトマトや全農が進めるミニトマト「アンジェレ」の栽培が導入されている。
- ・農業生産工程管理(GAP)の認証取得はまだ少ないが、取り組みへの意識は高まってきている。

##### ○流通・販売面

- ・大玉、中玉、ミニの品種や高糖度に加え、従来の出荷段ボール箱での出荷以外にも、少量段ボール箱、スタンドパック、バラ詰め(コンテナ)など消費者や実需者のニーズに応じた独自の取組がなされている。
- ・販売は農協系統出荷が大半を占め、石巻市場を中心に仙台市場、秋田市場のほか京浜方面へも出荷されている。

##### ○課題等

- ・大型の施設では補助事業等により環境制御設備導入が進んでいるが、そのシステムが十分に活かされておらず、結露による疫病発生、高温期の花飛びによる収量低下などの問題が起きている。

- ・平成9年度に導入し稼働を始めた石巻地区広域JAトマト選果施設は、大玉トマトから中玉、ミニトマトの生産に移行する生産者の増加や法人による選果・出荷が拡大したことにより、選果施設の利用率が低下している。
- ・地域によっては高齢化が進んでいる。
- ・直売や実需など多様なニーズに対応した品種の導入が求められている。
- ・収穫終了後の残さ等が適正に処理されるように、関係機関等が連携して啓発する必要がある。

### 3 具体的振興策

- 園芸特産品の供給力の強化
- 生産力と品質を高める農業技術の高度化
- 環境にやさしい農業の推進
- 園芸特産物の安全確保の推進
- 多様な需要に対応した販売力の強化

### 4 主な担い手(部会)等

- いしのまき農業協同組合トマト部会
  - ・石巻市トマト生産組合
  - ・河南トマト部会
  - ・やもととまと生産組合
- いしのまき農業協同組合ミニトマト部会
  - ・いしのまき農協ミニトマト部会河北北上支部
  - ・河南蔬菜部会
  - ・石巻地域ミニトマト研究会
- いしのまきミディトマト生産組合
- 株式会社アグリ・パレット
- 有限会社サントマト
- 株式会社スマイルファーム

### 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                    |  |
|--------|--------------------|--|
| 生産・技術面 | 園芸特産品の供給力の強化       | 各種作型を組み合わせた計画生産・出荷の実践<br>選果施設の利用推進と作型に応じた品種の選定, 技術の導入    |
|        | 生産力と品質を高める農業技術の高度化 | 省エネルギー化技術・機器の導入<br>環境制御技術の導入とシステムの活用                     |
|        | 環境にやさしい農業の推進       | 生物農薬等利用による生物的防除と耕種的防除技術の導入<br>農業用廃プラスチックの再生処理と残渣の適正処理の推進 |
|        | 園芸特産物の安全確保の推進      | 農業生産工程管理(GAP)の導入・実践・普及の推進<br>生産履歴記帳と情報公開・開示による信頼ある産地づくり  |
| 流通・販売面 | 多様な需要に対応した販売力の強化   | 作型に応じた品種の統一とニーズに対応した品種の導入推進                              |

表1 主な作型・月別農協出荷実績(H30年度)

●播種 ▲定植 ■収穫

| 作型              | 月     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |       |       |    |
|-----------------|-------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|-------|-------|----|
|                 | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  | 6   | 7   | 8   | 9  | 10 | 11    | 12    |    |
| 促成栽培            |       |    |    |    |    |     |     |     |    | ●  | ----- | ----- | ▲  |
| 半促成栽培           |       |    |    |    |    |     |     |     |    |    |       |       | ●  |
| 普通栽培<br>(雨よけ早熟) | ●     |    |    | ▲  |    |     | ■   |     |    |    | ■     |       |    |
| 抑制栽培            |       |    |    |    |    |     | ●   |     | ▲  |    | ■     |       | ■  |
| 長期栽培<br>(養液栽培)  |       |    |    |    |    |     |     | ●   | ▲  |    | ■     |       |    |
| 出荷量(t)          | 1,052 | 25 | 17 | 34 | 75 | 155 | 169 | 170 | 91 | 81 | 81    | 93    | 61 |
| うち大玉・中玉         | 718   | 12 | 8  | 24 | 53 | 120 | 116 | 100 | 57 | 60 | 58    | 68    | 42 |
| うちミニトマト         | 334   | 13 | 9  | 10 | 22 | 35  | 53  | 70  | 34 | 21 | 23    | 25    | 19 |

## 【ほうれんそう】

### 地域周年生産体制による供給力の強化

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 24.1           | 26.1   | 26.1         | 26.1          | 1.1          |
| 出荷量 (t)   | 210.7          | 239.2  | 250.6        | 250.6         | 1.2          |
| 産出額 (千万円) | 11.8           | 14.1   | 14.7         | 14.7          | 1.2          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・桃生地区では約半数が周年栽培，残りはミニトマトとの輪作が多く，石巻地区では周年栽培は1割程度で多くはいちごと組み合わせた秋冬及び夏栽培が行われている。
- ・矢本地区では，晩秋から冬季の気候を活かした露地のちぢみほうれんそうの栽培が盛んである。
- ・県の事業を活用してほうれんそうの機械化体系と生産・調整を分業化した大規模周年栽培が始まる予定である。

##### ○流通・販売面

- ・仙台，石巻市場を中心に一部は京浜方面へも出荷されている。
- ・石巻地区では，学校給食への提供も行われている。
- ・矢本地区では，「ちぢみほうれんそう発祥の地」としてブランド化が図られている。

##### ○課題等

- ・施設栽培においては，土壌に塩類が過剰に集積しているほ場が見られる。
- ・生産者の多くが他の作物との複合経営であるため，時期によっては出荷量が安定しない。
- ・雇用型の経営体が増加し，年間を通じて雇用するためにも冬期間の作付拡大が期待されている。
- ・露地のちぢみほうれんそうでは，生育初期の台風の影響などによる立ち枯れや雨の多い年には炭疽病などの発生も見られている。

#### 3 具体的振興策

- 園芸特産品目の供給力の強化
- 生産力と品質を高める農業技術の高度化
- 環境にやさしい生産技術の確立
- 園芸特産物の安全確保の推進
- ブランド力の強化
- ほうれんそうの病害対策



#### 4 主な担い手(部会)等

○いしのまき農業協同組合ほうれん草部会

・石巻市ホーレン草生産組合 ・桃生町ほうれん草部会 ・やもとほうれん草生産組合

○株式会社絆粋ファーマーズ

#### 5 具体的取り組み内容

| 項目             |                           |   |
|----------------|---------------------------|---|
| 生産・技術面         | 園芸特産品目の供給力の強化             | 遊休施設や水稻育苗ハウスの有効活用による作付の拡大, 周年供給体制の整備            |
|                |                           | 農業生産法人や集落営農組織等に対する作付誘導の実施                       |
|                | 生産力と品質を高める農業技術の高度化        | 連作障害を回避するための多品目との輪作体系の確立                        |
|                |                           | 土壌診断に基づく適正施肥の推進と塩類集積ほ場の改善<br>機械化・分業化などの省力化技術の検討 |
| 環境にやさしい生産技術の確立 | 太陽熱消毒や土壌還元消毒による土壌病害虫防除の実践 |   |
| 流通・販売面         | 園芸特産物の安全確保の推進             | 生産履歴記帳と情報公開・開示による信頼ある産地づくり                      |
|                | ブランド力の強化                  | 産地からの情報発信による認知度向上                               |
|                |                           | 学校給食や病院等への利用促進による消費拡大                           |

表1 主な作型と栽培品種・月別農協出荷実績(H30年度)

●播種 ■収穫

| 作型           | 主な品種名              | 月  |    |       |    |       |       |       |   |       |       |       |    |       |   |
|--------------|--------------------|----|----|-------|----|-------|-------|-------|---|-------|-------|-------|----|-------|---|
|              |                    | 1  | 2  | 3     | 4  | 5     | 6     | 7     | 8 | 9     | 10    | 11    | 12 |       |   |
| パイプハウス<br>周年 | 福兵衛                |    | ●  | ===== | ●  | ----- | ■     | ===== | ■ |       |       |       |    |       |   |
|              | ハイサンピア             |    |    |       | ●  | ===== | ●     | ----- | ■ | ===== | ■     |       |    |       |   |
|              | 晩抽サン<br>ホープ        |    |    |       |    | ●     | ===== | ●     |   |       |       |       |    |       |   |
|              | サンホープ7             |    |    |       |    |       | ■     | ===== | ■ | ===== | ■     |       |    |       |   |
| 露地寒締め        | オシリス               |    |    |       |    |       |       |       |   | ●     | ===== | ●     | ■  | ===== | ■ |
|              | 寒味極<br>冬霧<br>雪美菜01 |    |    |       |    |       |       |       |   |       | ●     | ===== | ●  | ----- | ■ |
| 出荷量(t)       | 211                | 30 | 28 | 18    | 14 | 15    | 14    | 7     | 8 | 10    | 14    | 16    | 37 |       |   |

## 【パプリカ】

### 需要に対応した生産体制の整備と経営の安定化

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 1.3            | 2.2    | 2.2          | 2.2           | 1.7          |
| 出荷量 (t)   | 299.3          | 501.4  | 501.4        | 501.4         | 1.7          |
| 産出額 (千万円) | 14.0           | 27.0   | 27.0         | 27.0          | 1.9          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・次世代施設園芸導入加速化支援事業により、石巻市北上町地区においてオランダ型ガラス温室が建設され、平成28年度にパプリカ1.3haの生産が開始された。
- ・初年目(H28)より目標収量(17t/10a)を上回り、3期作(H30)には目標19t/10aに対して23t/10a(121%)の実績を残した。
- ・成果目標である化石燃料3割削減については、良質な木質チップへの変更によりLPGボイラーの使用が減少したことにより、栽培開始から3年目のH30年に達成した。

##### ○流通・販売面

- ・販路拡大のため展示会への積極的な出店やJAXAの宇宙食にパプリカが採用されたこともあり、契約取引が85%を占め、残りはJAの系統販売である。

##### ○課題等

- ・デ・リーフデ北上は、役員、従業員ともにパプリカの栽培経験がなかったが、社員、従業員の懸命の努力と関係機関の技術支援などから早期に栽培技術の安定化を図ることが出来た。
- ・国の補助事業を活用し、石巻市大川地区にデ・リーフデ北上と同規模の農業法人「デ・リーフデ大川」を設立。北上と同様にパプリカ等を栽培するが、早期の生産安定化が課題である。
- ・うどんこ病の発生により防除に苦慮している。また、黄色系の品種に多い果実内部褐変・腐敗などによる出荷後のクレームが見られる。

#### 3 具体的振興策

- 高度な環境制御技術を生かした生産力向上と高品質化
- 地中熱、木質バイオマスを活用した省エネルギーモデルの継続
- パート等従業員の作業技術の平準化
- 多様な需要に対応した販売力の強化
- 需要の開拓と販路の拡大

#### 4 主な担い手(部会)等

○株式会社デ・リーフデ北上 ○株式会社デ・リーフデ大川

#### 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                      |  |
|--------|----------------------|--|
| 生産・技術面 | 高度な環境制御による生産力向上と高品質化 | 目標収穫量確保のための環境制御システムの活用による適切な栽培環境の検討    |
|        | 省エネルギーモデルの構築         | 木質バイオマスボイラーや地中熱ヒートポンプ, LPG ボイラーの効率的な活用 |
|        | 従業員の作業技術の標準化         | 作業手順のマニュアル化及び従業員の技術習得支援                |
| 流通・販売面 | 多様な需要に対応した販売力の強化     | 販売単価の安定につながる需要に応じた販売契約の推進              |
|        | 需要開拓と販路拡大            | 市場, 流通業者との積極的な連携による消費者を対象としたプロモーション活動  |

表1 作型と栽培品種・月別販売実績(H30年度)

▲定植 ■収穫

| 作型       | 主な品種名                         | 月 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----------|-------------------------------|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|          |                               | 1 | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |
| 周年栽培     | 赤:アルテガ<br>黄:スヴェン<br>橙:オランダイーノ |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 販売計画量(t) | 299                           | 7 | 30 | 20 | 37 | 47 | 42 | 36 | 35 | 45 | -  | -  | -  |

【ねぎ類】

機械化・省力化の推進と栽培技術の高位平準化

1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 47.1           | 47.1   | 47.1         | 47.1          | 1.0          |
| 出荷量 (t)   | 893.3          | 1109.7 | 1496.1       | 1496.1        | 1.7          |
| うち 長ねぎ    | 556.4          | 772.8  | 1159.2       | 1159.2        | 2.0          |
| うち こねぎ    | 336.9          | 336.9  | 336.9        | 336.9         | 1.0          |
| 産出額 (千万円) | 42.2           | 41.4   | 55.8         | 55.8          | 1.3          |
| うち 長ねぎ    | 14.7           | 16.2   | 29.6         | 29.6          | 2.0          |
| うち こねぎ    | 27.5           | 25.3   | 25.9         | 25.9          | 0.9          |

2 現状と課題

(1) 長ねぎ

○生産・経営面

- ・東松島市が「矢本」の地域名で指定産地となっており、種別は「秋冬」である。
- ・秋冬採りを中心に、周年で出荷が出来る作付体系で栽培が行われている。
- ・栽培施設を必要とせず、単価が安定しているなどの理由から、東日本大震災以降作付が増加している。
- ・共同調製施設や作業受託体制が無く、個々で生産から出荷までの作業を行っている。

○流通・販売面

- ・販売は農協系統の出荷が大半を占めており、東北を中心に各地市場へ出荷している。
- ・指定産地の区域の拡大を視野に、「いしのまきねぎ」の販売ブランドで統一が図られつつある。

○課題等

- ・圏域内だけではなく、県内の他地域でも秋冬ねぎの作付が拡大しており、価格の下落が予想される。
- ・軟腐病、萎凋病といった難防除土壌病害の発生が確認されている。
- ・春採りの作型や分けつねぎ(千本ねぎ)の栽培技術が確立していない。

(2) こねぎ

○生産・経営面

- ・共同調製施設や作業受託体制が無いため、個々で生産から出荷までの作業を行っている。
- ・若手の後継者が比較的多く、部会内の青年部として現地検討などの活動に取り組んでいる。

○流通・販売面

- ・販売は農協系統の出荷が大半を占めており、東北の各市場を中心に出荷している。
- ・こねぎは「スリムねぎ」の商品名で販売を展開している。

○課題等

- ・選別・調整作業の労力確保が支障となり、経営の規模拡大を妨げている。
- ・棚持ちのよい「固い」こねぎの生産のためかん水量を絞った栽培を行っているが、これが原因となって葉先枯れ症や生育の停滞が誘発されている。
- ・上位等級と下位等級との価格差が大きい。

### 3 具体的振興策

(1) 長ねぎ

- 安定的な周年出荷に向けた技術力向上支援
- 作付面積拡大に向けた省力体系の確立
- 販売チャネルの拡大推進
- 産地競争力の強化

(2) こねぎ

- 市場の需要に合った品質の生産安定化支援
- 省力化技術の推進
- 新規参入者の増加促進支援

### 4 主な担い手(部会)等

(1) 長ねぎ

- いしのまき農業協同組合長葱部会
  - ・石巻市長葱生産組合
  - ・河南蔬菜部会
  - ・やもと長葱生産組合

(2) こねぎ

- いしのまき農協スリムねぎ部会

### 5 具体的取り組み内容

(1) 長ねぎ

| 項目     |                     |                                    |
|--------|---------------------|------------------------------------|
| 生産・技術面 | 安定的な周年出荷に向けた技術力向上支援 | 病虫害防除の徹底の呼びかけ                      |
|        |                     | 秋冬ねぎの黄色斑紋病斑対策                      |
| 生産・技術面 | 作付面積拡大に向けた省力体系の確立   | 収穫機の導入や、根切り、葉切り、皮むき等の収穫調製作業の機械導入支援 |
|        |                     | 作業受託制度の導入検討                        |
| 流通・販売面 | 販売チャネルの拡大推進         | 契約取引や業務用仕向けの生産、出荷の推進               |
|        | 産地競争力の強化            | 流通コストの抑制による他産地との競争力の強化に向けた支援       |

(2) こねぎ

| 項目     |                     |  |
|--------|---------------------|--|
| 生産・技術面 | 市場の需要に合った品質の生産安定化支援 | 市場の要求に合わせた品質で生産できる栽培技術の獲得支援<br>夏場の葉先枯れ発生防止に向けた栽培技術指導 |
|        | 省力化技術の推進            | 作業受託や共同調製施設の導入など、生産者の省力化に繋がる技術や体制の整備推進               |
|        | 新規参入者の増加促進支援        | 遊休パイプハウスの貸借制度の導入検討<br>桃生地域以外での新規作付の推進                |

表1 主な作型と栽培品種・月別農協出荷実績(H30年度)

●播種 ▲定植 ■収穫

| 作型           | 主な品種名  | 月別    |    |       |    |        |       |       |       |       |       |       |       |       |   |
|--------------|--------|-------|----|-------|----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
|              |        | 1     | 2  | 3     | 4  | 5      | 6     | 7     | 8     | 9     | 10    | 11    | 12    |       |   |
| 長ねぎ          | 夏扇     |       | ●  | ===== | ●  | -▲     | ===== | ▲     | ----- |       |       |       | ■     | ===== |   |
|              | 名月一文字  | ===== |    |       |    |        |       |       |       |       |       |       | ■     |       |   |
|              | ホリトスター |       |    |       |    | ●      | ----- | ▲     | ----- |       |       |       |       |       |   |
|              | 関羽     |       |    |       | ■  | =====  | ■     |       |       |       |       |       |       |       |   |
|              | 羽緑     |       |    |       |    |        |       |       |       | ●     | ----- | ▲     | ----- |       |   |
|              | 森の奏で   |       |    |       |    |        |       |       |       |       |       |       | ■     | ===== |   |
| 千本ねぎ         |        |       |    |       |    | ● (仮植) | ----- | ●     | ----- |       |       | ▲     | ===== |       |   |
|              |        |       |    |       |    |        | ■     | ===== | ■     |       |       |       |       |       |   |
| こねぎ<br>ハウス周年 | 若殿     |       | ●  | ===== | ●  | -----  | ■     | ===== | ■     |       |       |       |       |       |   |
|              |        |       |    |       | ●  | =====  | ●     | ----- | ■     | ===== |       |       | ■     |       |   |
|              |        |       |    |       |    |        |       |       |       |       | ●     | ===== | ●     | ----- | ■ |
|              |        |       |    |       |    |        |       |       |       |       |       |       |       |       | ● |
|              |        |       |    |       |    |        |       |       |       |       |       | ■     |       |       |   |
|              |        |       | ●  | ----- | ■  | =====  | ■     |       |       |       |       |       |       |       |   |
| 出荷量(t)       | 893    | 58    | 54 | 58    | 70 | 71     | 68    | 59    | 73    | 73    | 87    | 117   | 105   |       |   |
| うち 長ねぎ       | 556    | 42    | 30 | 37    | 37 | 35     | 25    | 27    | 40    | 47    | 64    | 94    | 78    |       |   |
| うち こねぎ       | 337    | 16    | 24 | 21    | 33 | 36     | 43    | 32    | 33    | 26    | 23    | 23    | 27    |       |   |

## 【えだまめ】

### 「伊達な茶豆」ブランドを活用した産地の発展

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 4.6            | 4.6    | 4.6          | 4.6           | 1.0          |
| 出荷量 (t)   | 16.1           | 16.1   | 16.1         | 16.1          | 1.0          |
| 産出額 (千万円) | 0.9            | 0.9    | 0.9          | 0.9           | 1.0          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・農業生産法人が経営安定を目的として栽培品目の複数化のため取入れている。
- ・東日本大震災農業生産対策交付金で収穫機，選別機械等の機械を再整備した。
- ・栽培農家が市内に分散しており，部会等の組織はない。

##### ○流通・販売面

- ・石巻市場へ出荷している。
- ・一部法人では，いしのまき農業協同組合が商標登録した「伊達な茶豆」の名称を使用している。

##### ○課題等

- ・生産者間の連携がなく，地域としての振興が図りづらい。
- ・「石巻」はえだまめの産地としてのイメージが薄い。

#### 3 具体的振興策

- 水田における作付推進
- 収穫機，選別機等の効率的活用
- 生産者間の情報共有による販売体制の整備
- 業務用契約取引の推進
- えだまめ産地としてのイメージ定着

#### 4 主な担い手(部会)等

- 農事組合法人水沼ファーム

## 5 具体的取り組み内容

| 項目     |               |  |
|--------|---------------|--|
| 生産・技術面 | 水田における作付推進    | 土地利用型の農業生産法人の新規作目として作付誘導<br>津波被災復旧農地及びほ場整備地区等での作付の推進 |
|        | 作業機械の効率的活用    | 収穫機, 選別機の導入支援<br>農業法人, 生産組織への面積拡大誘導                  |
| 流通・販売面 | 情報共有による販売体制整備 | 生産者の動向の早期把握による適切な品種選定等の助言                            |
|        | 業務用等の契約取引の推進  | 「ずんだ」原料等の新たな需要の開拓                                    |
| その他    | 産地としてのイメージ定着  | 「伊達な茶豆」ブランドの効果的な活用の検討                                |

表1 主な作型と栽培品種・月別農協出荷実績 (H30年度)

●播種 ▲定植 ■収穫

| 作型     | 主な品種名 | 月                   |   |   |   |   |   |   |    |   |    |    |    |
|--------|-------|---------------------|---|---|---|---|---|---|----|---|----|----|----|
|        |       | 1                   | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8  | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 普通栽培   | 一番茶   | ●-----●-----■-----■ |   |   |   |   |   |   |    |   |    |    |    |
| 出荷量(t) | 16.0  | -                   | - | - | - | - | - | 2 | 14 | 0 | 0  | -  | -  |



## 【ばれいしょ】

### 水田を利用した加工用ばれいしょの生産振興

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 10.0           | 15.0   | 20.0         | 25.0          | 2.5          |
| 出荷量 (t)   | 298.0          | 525.0  | 700.0        | 875.0         | 2.9          |
| 産出額 (千万円) | 1.3            | 2.1    | 2.8          | 3.5           | 2.7          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・東松島市 1 法人が平成 28 年より栽培を取り組んでおり、栽培面積は拡大傾向である。その法人においては、現状栽培の機械化一貫体系が確立している。
- ・水田農業の転作作物の一つとして導入がなされている。

##### ○流通・販売面

- ・加工業務向け契約販売。これまでも県内で取り組んでいる地区もあり、販売先には問題が無い。
- ・鉄コンテナにより、生産者段階の出荷から物流まで行っている。

##### ○課題等

- ・新規ほ場整備事業等において、高収益作物の導入が要件となっているが、栽培技術や機械導入に不安があり、現段階では管内での栽培は 1 法人にとどまっている。
- ・現在取組んでいる法人からは、圃場での収穫作業を短期間で終了させるため、共同選別施設の設置要望がある。
- ・作付面積を拡大するには、排水の良いほ場の確保が必要である。
- ・今後面積拡大によっては、一時保管倉庫の不足が考えられる。

#### 3 具体的振興策

- 水田における園芸振興と技術の高度化
- 機械化一貫体系の普及
- 安全安心確保の推進
- 契約取引の実施
- 土地利用型園芸組織の育成

#### 4 主な担い手（部会）等

農事組合法人おおしお北部

#### 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                   | 取組み内容   |
|--------|-------------------|---|
| 生産・技術面 | 水田における園芸振興と技術の高度化 | ほ場整備を生かした輪作体系による持続的な安定生産技術の推進。<br>・営農排水技術の導入<br>・病虫害対策の実施 |
|        | 機械化一貫体系の普及        | 機械化栽培体系の普及並びに作業の外部化(分業化)など, 生産の効率化, 省力化の推進。               |
| 流通・販売面 | 安全安心確保の推進         | 生産履歴記帳とトレーサビリティによる信頼ある産地づくり。                              |
|        | 契約取引の実施           | 播種前契約による安定供給の実施。  |
| その他    | 土地利用型園芸組織の育成      | 農業生産法人・集落営農組織等の新規栽培者の掘り起し。                                |

表 1 主な作型と栽培品種(H30 年度)

浴光催芽○ 播種● 収穫■

| 主な品種             | 月 |   |   |   |       |   |   |   |   |    |    |    |
|------------------|---|---|---|---|-------|---|---|---|---|----|----|----|
|                  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5     | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| ぼろしり<br>オホーツクチップ |   |   | ○ | ● | ----- | ■ | ■ |   |   |    |    |    |

## 【せり】

### 「河北せり」の高品質生産による産地ブランドの強化

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 5.3            | 8.5    | 8.5          | 8.5           | 1.6          |
| 出荷量 (t)   | 81.0           | 118.2  | 118.2        | 118.2         | 1.5          |
| 産出額 (千万円) | 10.9           | 17.8   | 17.8         | 17.8          | 1.6          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・作付は石巻市河北地区の転作田で行われており、同地区の水田フル活用ビジョンの産地交付金対象作物になっている。
- ・県内で一般的な「根せり」の栽培のほか、春に芽吹いた新芽を収穫する「葉せり」の栽培も行ってる。
- ・これまで交流の少なかった3つの生産団体が協議会を組織し、「河北せり」の名称で地理的表示(GI)保護制度に登録申請、このため生産方法や出荷方法などが統一された。令和2年12月23日に宮城県産青果物として初の登録となったことを契機に、産地ブランドを活かし、販売力の強化を図る必要がある。
- ・県が開発した新品種「Re14-4」は、現地適応性試験と親株の増殖が行われている。

##### ○流通・販売面

- ・仙台・石巻・秋田市場を中心に契約取引及び市場出荷されている。
- ・年末を中心に需要が高く、安定した単価で取引されている。

##### ○課題等

- ・高齢化のため離農する生産者がいるが、労働条件が厳しいことなどから後継者や新規栽培者が確保できず、作付面積は減少傾向にある。
- ・用水などのほ場条件が整っていないと栽培できないため栽培規模の拡大が難しい。
- ・10月下旬頃から、カモの食害による被害が目立つ。最近ではシカによる食害の被害も見られる。

#### 3 具体的振興策

- 地域の特産野菜として市場の要求に応えられる生産力の強化
- 消費者に対する安全安心確保の推進
- 食と農の相互理解の推進
- 鳥獣害対策の推進

#### 4 主な担い手(部会)等

○河北セリ振興協議会

- ・いしのまき農協セリ部会
- ・石巻市河北せり出荷組合
- ・皿貝農産組合

#### 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                            |                                 |
|--------|----------------------------|---------------------------------|
| 生産・技術面 | 地域特産野菜として市場の要求に応えられる生産力の強化 | GI登録による生産方式並びに出荷方法の統一           |
|        |                            | 現地検討会などによる栽培・防除指導               |
|        |                            | 他地域からの参入者獲得などの担い手の発掘            |
|        |                            | 防護柵などを用いた鳥獣防止対策の推進              |
|        |                            | 新品種「Re14-4」の導入拡大に向けた栽培指導        |
| 流通・販売面 | 消費者に対する安全安心確保の推進           | 生産履歴記帳および出荷前確認の徹底               |
|        | 食と農の相互理解の推進                | 地域内直売所や販売会など、他地域への「河北せり」PR活動の実施 |

表1 主な作型と栽培品種・月別農協出荷実績(H30年度)

●播種 ▲定植 ■収穫

| 作型     | 主な品種名 | 月      |        |   |   |    |   |   |   |     |        |        |       |
|--------|-------|--------|--------|---|---|----|---|---|---|-----|--------|--------|-------|
|        |       | 1      | 2      | 3 | 4 | 5  | 6 | 7 | 8 | 9   | 10     | 11     | 12    |
| 根ぜり    | 飯野川在来 |        |        |   |   |    |   |   |   | ●   | -----● | -----■ | ----- |
|        | 島根みどり | =====■ |        |   |   |    |   |   |   |     |        |        |       |
| 葉ぜり    | 飯野川在来 |        |        |   |   |    |   |   |   | ●=● | -----  |        |       |
|        |       | -----■ | =====■ |   |   |    |   |   |   |     |        |        |       |
| 出荷量(t) | 81    | 12     | 5      | 2 | 9 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0   | 4      | 13     | 25    |

## 【スイートコーン】

高品質・安定供給体制確立による産地の維持・拡充

### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 13.9           | 13.9   | 13.9         | 13.9          | 1.0          |
| 出荷量 (t)   | 70.5           | 70.5   | 70.5         | 70.5          | 1.0          |
| 産出額 (千万円) | 1.6            | 1.6    | 1.6          | 1.6           | 1.0          |

### 2 現状と課題

#### ○生産・経営面

- ・東松島市矢本地区及び石巻市河南地区において中心的に栽培されている。
- ・土壌改良・土壌病害対策として輪作体系の一環で栽培されているものが多い。
- ・部会員の法人化・高齢化によって生産者数は減少傾向にあるが、後継者の就農など若手生産者の参入もみられる。

#### ○流通・販売面

- ・ほとんどが直売所や農協へ出荷されている。
- ・市場は主に仙台と石巻に出荷されており、価格は比較的安定している。
- ・直売所の人気商品であり、特に河南地区では直売所への出荷量が増えている。

#### ○課題等

- ・収穫期における虫害のほか、ハクビシンなどの鳥獣被害が増加傾向にある。
- ・生育が栽培期間中の天候に左右されやすい品目であるが、特に干ばつ時の用水確保が求められている。

### 3 具体的振興策

- 省力化につながる品種選定の支援
- 良品質、安定生産に向けた技術の確立
- 地元消費の拡大等による安定販売
- ニーズに応じた販売力の強化

### 4 主な担い手(部会)等

- 河南蔬菜部会
- やもととうもろこし生産組合

## 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                    |                                  |
|--------|--------------------|----------------------------------|
| 生産・技術面 | 品種選定による省力化         | 倒伏が少ない等の特性を持ち, 労力削減につながる品種の導入促進。 |
|        | 良品質, 安定生産に向けた技術の確立 | ハクビシン等, 鳥獣被害状況の把握及び防除対策の検討       |
|        |                    | 病虫害防除・栽培技術指導等の継続的な実施             |
|        |                    | 干ばつ時における技術対策の普及指導                |
| 流通・販売面 | 地元消費拡大対策           | 石巻市場・量販店を利用した PR 活動の充実           |
|        | ニーズに応じた販売力の強化      | 直売所等の地域に根ざした販売展開                 |

表1 主な作型と栽培品種・月別農協出荷実績 (H30年度)

●播種 ▲定植 ■収穫

| 作型     | 主な品種名                     | 月 |   |   |   |   |   |    |   |   |    |    |    |
|--------|---------------------------|---|---|---|---|---|---|----|---|---|----|----|----|
|        |                           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7  | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 普通栽培   | ゴールドラッシュ<br>味来<br>ミルクスイーツ |   |   |   |   |   |   |    |   |   |    |    |    |
| 出荷量(t) | 70                        | - | - | - | - | - | 3 | 58 | 9 | - | -  | -  | -  |

## 【はくさい】

### 「仙台白菜」の供給地としてのブランド定着

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 8.2            | 9.0    | 10.0         | 10.0          | 1.2          |
| 出荷量 (t)   | 153.0          | 180.0  | 200.0        | 200.0         | 1.3          |
| 産出額 (千万円) | 1.2            | 1.4    | 1.6          | 1.6           | 1.3          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・主な生産地は東松島市矢本地区である。
- ・矢本地区では東日本大震災以降に伝統種である「松島純2号」、「松島新2号」の栽培が行われている。
- ・生産者は若手が比較的多く、後継者も就農している。

##### ○流通・販売面

- ・市場への農協系統出荷が中心で、全農みやぎが「仙台白菜」として全県的にブランド化を目指しており、安定した価格で取引されている。
- ・出荷形態はコンテナの活用により、比較的省力化が進んでいる。

##### ○課題等

- ・伝統種は土壌伝染性病害(根こぶ病)に対して抵抗性がないため、連作ほ場における発生や収量の低下が懸念される。
- ・「仙台白菜」は全県統一のブランドであり、石巻圏域の主力品目として今後育成するための方向性、方策等の検討が必要である。

#### 3 具体的振興策

- 土壌病害を予防し安定生産を可能とする技術力の向上
- 「仙台白菜」のブランド推進
- 市場・流通関係者との交流機会の拡大及び情報発信の強化

#### 4 主な担い手(部会)等

- やもと蔬菜組合

## 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                  |                                     |
|--------|------------------|-------------------------------------|
| 生産・技術面 | 安定生産を可能とする技術力向上  | 根こぶ病等の土壌伝染性病害に対する防除の徹底              |
|        |                  | 干ばつ時における管理技術の確立および普及                |
| 流通・販売面 | 「仙台白菜」のブランド推進    | 全農みやぎ等の関係団体と協調した販売促進                |
|        | 交流機会の拡大及び情報発信の強化 | 小売店, 飲食店等の実需者向けの現場見学会の開催による産地への理解促進 |

表1 主な作型と栽培品種・月別農協出荷実績 (H30年度)

●播種 ▲定植 ■収穫

| 作型    | 主な品種名   | 月 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |     |    |  |
|-------|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|-----|----|--|
|       |         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11  | 12 |  |
| 春まき栽培 | 松島純2号   |   | ● | ● | ▲ | ▲ |   |   |   |   |    |     |    |  |
| 夏まき栽培 | 黄愛・秋の祭典 |   |   |   |   |   |   |   |   | ● | ●  |     |    |  |
|       | 153     | - | - | - | - | - | 0 | - | - | - | 4  | 122 | 27 |  |



## 【ちぢみゆき菜】

### 高品質生産による産地の維持・発展

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 2.7            | 2.7    | 2.7          | 2.7           | 1.0          |
| 出荷量 (t)   | 35.8           | 35.8   | 35.8         | 35.8          | 1.0          |
| 産出額 (千万円) | 1.0            | 1.0    | 1.0          | 1.0           | 1.0          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・作付けは東松島市鳴瀬地区及び石巻市で栽培が行われている。
- ・新規栽培者における作業体系や作業精度に課題がある。
- ・震災後の移転元地の畑地利用においては、収穫量及び収益性が低いため土づくり等を行う必要がある。
- ・ちぢみゆき菜の前作及び後作の作物選定や輪作体系の確立が必要である。

##### ○流通・販売面

- ・販売は、農協系統出荷が大半を占めており、主に石巻青果を中心に札幌市場等に出荷している。特に札幌市場では、宮城県の出荷枠が決まっていることから、今後、全農を通じた札幌市場との出荷枠確保のための交渉が必要である。

##### ○課題等

- ・生産者は他品目との複合経営であるため、「ほうれんそう」や「こまつな」の出荷を優先し、その後に「ちぢみゆき菜」を出荷する傾向があることから、単価向上のためブランドの構築が必要である。
- ・出荷形態は巾着タイプとフラワータイプがあるが、現在、巾着タイプで出荷している。札幌市場からはフラワータイプの要望が出されており、今後、生産者の栽培体系(株間設定、調整作業)の見直しなど、生産から出荷までの体系化が必要である。

#### 3 具体的振興策

- ちぢみゆき菜の供給力の強化
- 高品質生産のための栽培技術の高度化
- 需要開拓と販路拡大
- 食の安全の確保
- 活力ある担い手の育成・確保

#### 4 主な担い手(部会)等

○個人20名

法人8経営体

JAいしのまきにて、将来、部会の設立を検討する。

#### 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                   |  |
|--------|-------------------|--|
| 生産・技術面 | ちぢみゆき菜の供給力の強化     | 新規栽培者の掘起こしや遊休農地の活用等による栽培面積の拡大。<br>農地所有適格法人や集落営農組織等への作付誘導による、産地の確立。     |
|        | 高品質生産のための栽培技術の高度化 | 栽培技術、病虫害対策等の研修会を通じた、高品質生産技術の定着。<br>土壌診断に基づく適正施肥の推進。<br>真空播種機の導入及び利用促進。 |
| 流通・販売面 | 需要開拓と販路拡大         | 冬場の葉物野菜の需要が伸びる北海道方面を中心とした、流通販売の促進。                                     |
|        | 食の安全の確保           | 生産履歴記帳と情報公開・開示による信頼のある産地づくり。   |
| その他    | 活力ある担い手の育成・確保     | 冬場の作物として露地及び施設において導入をすすめ、新規栽培者や法人、集落営農組織などの担い手を育成する。                   |

表 主な作型と栽培品種・月別農協出荷実績 (H30 年度)

●播種 ▲定植 ■収穫

| 作型          | 主な品種名  | 月       |   |   |   |   |   |   |   |        |        |      |    |
|-------------|--------|---------|---|---|---|---|---|---|---|--------|--------|------|----|
|             |        | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9      | 10     | 11   | 12 |
| パイプハウス(寒締め) | 広瀬ちぢみ菜 | ■=====■ |   |   |   |   |   |   |   |        | ●----- |      |    |
| 露地(寒締め)     | 広瀬ちぢみ菜 | =====■  |   |   |   |   |   |   |   | ●----- |        | ■=== |    |
| 出荷量(t)      | 36     | 7       | 5 | 2 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1      | 2      | 6    | 8  |

注意：播種は、ハウス(10月上旬～中旬)、露地(9月20日～25日)

ハウスにおける11月中旬以降の播種は、抽苔の可能性があるので避ける。

全農みやぎでは、ブランド化のため12月に入ってから低温の遭遇度合いを見て「ちぢみゆき菜」ブランドとして出荷解禁となる。

## 【さつまいも】

### 生産性の向上による産地確立と販路拡大

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 基準年<br>(H30年)<br>(A) | R4年<br>計画 | R5年<br>(中間評価) | 目標<br>R7年<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------------|-----------|---------------|------------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 0.0                  | 4.0       | 6.0           | 10.0             | -            |
| 出荷量 (t)   | 0.0                  | 25.0      | 108.0         | 200.0            | -            |
| 産出額 (千万円) | 0.0                  | 0.175     | 0.756         | 2.0              | -            |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・令和2年から石巻市内を中心にさつまいも生産が始まり、令和3年の作付面積は 1.9haで今後も拡大することが見込まれる。
- ・個別の取組面積は小さく、機械導入は進んでいない。

##### ○流通・販売面

- ・県外加工業者との契約販売であり、ほ場で収穫し、キュアリングせずに出荷する体系となっている。
- ・一部の農業法人では、独自にキュアリングして出荷する流通ルートを確認している。

##### ○課題等

- ・苗供給元が基腐れ病の拡大により生産に不安定感がある。
- ・単収向上のため、生産技術の定着と向上が必要である。
- ・作付面積拡大に向けては、収穫機等の機械導入が必要である。
- ・今後販路拡大によっては、一時保管及びキュアリング施設の設置が必要となることが考えられる。

#### 3 具体的振興策

- 生産技術の向上
- 機械化体系の導入定着
- 契約取引の実施
- 販路の拡大
- 土地利用型園芸経営体の育成

#### 4 主な担い手（部会）等

- いしのまき農業協同組合 個人、法人 15 経営体(KANAN FARM等)及び新規生産者
- (株)よつばファーム

## 5 具体的取組内容

| 項目     |               | 取組内容                                       |
|--------|---------------|--|
| 生産・技術面 | 生産技術の向上       | 適正施肥等による単収確保に向けた技術指導<br>水田における継続的安定生産の推進   |
|        | 機械化体系の導入定着    | 機械化一貫体系栽培による生産性の向上及び省力化の推進                 |
| 流通・販売面 | 契約取引の実施       | 実需者等との契約による安定供給産地の確立支援                     |
|        | 販路の拡大         | キュアリングの実施等による多様なニーズへの対応                    |
| その他    | 土地利用型園芸経営体の育成 | 農業者, 農業法人, 集落営農組織等の生産者に対するさつまいもの経営品目導入定着支援 |

表 1 主な作型と栽培品種(R3 年度)

▲定植 ■収穫

| 主な品種 | 月           |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
|------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
|      | 1           | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 紅はるか | ▲=▲-----■=■ |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |

## 【アスパラガス】

### 直売等を中心とした新たな地域特産野菜の育成

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R4(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 0.02           | 1.0    | 1.5          | 3.0           | 150          |
| 出荷量 (t)   | 0.002          | 0.1    | 6.0          | 15.0          | 7500         |
| 産出額 (千万円) | 0.0004         | 0.02   | 0.6          | 1.5           | 3750         |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・令和元年度にアスパラガス研究会が組織され、アスパラガスの導入・定着による農業所得の向上と地域活性化を目指している。
- ・アスパラガス栽培の課題である病害対策として明治大学等が開発した「1年養成株全収穫栽培法（採りつきり栽培）」と慣行の「ハウス立茎栽培」に取り組む生産者が増えている。
- ・栽培管理勉強会等により、採りつきり栽培の技術習得が図られている。

##### ○流通・販売面

- ・市場では、春夏期は山形や福島産、秋冬期は輸入品の取扱いが多い。
- ・石巻圏域産は直売所や石巻市場に出荷され人気は高いが、出荷量はまだ少ない。

##### ○課題等

- ・採りつきり栽培では春期の凍霜害や夏秋期の病害虫対策による単収向上が課題である。
- ・他作目との作業競合による作業遅れや、地力の低いほ場での栽培がみられる。
- ・ハウス立茎栽培による単収の確保が課題である。

#### 3 具体的振興策

- 採りつきり栽培やハウス立茎栽培を組み合わせた生産体制の確立
- 直売所や地元量販店への販売力強化
- 新規生産者の増加促進

#### 4 主な担い手(部会)等

- アスパラガス研究会 20 経営体

## 5 具体的取組内容

| 項目     |                               | 取組内容                       |
|--------|-------------------------------|----------------------------|
| 生産・技術面 | 採りつきり栽培やハウス立茎栽培を組み合わせた生産体制の確立 | 栽培に適するほ場の選定及び排水対策等の確実な実施指導 |
|        |                               | 栽培技術の向上と定着支援               |
|        |                               | 病虫害対策の技術指導                 |
| 流通・販売面 | 直売所や地元量販店への販売力強化              | 市場等の信頼を得る品質確保と販売促進支援       |
| その他    | 新規生産者の増加促進                    | 土地利用型経営体, 園芸経営体の新規取組支援     |

表1 主な作型と栽培品種

▲定植 ■収穫

| 作型       | 主な品種名    | 月 |   |   |       |       |   |   |   |       |    |    |    |
|----------|----------|---|---|---|-------|-------|---|---|---|-------|----|----|----|
|          |          | 1 | 2 | 3 | 4     | 5     | 6 | 7 | 8 | 9     | 10 | 11 | 12 |
| 採りつきり栽培  | ギガデル     |   |   |   | ▲     | ----- |   |   |   |       |    |    |    |
|          | 太宝早生     |   |   |   | ■     | ===== | ■ |   |   |       |    |    |    |
| ハウス立茎栽培  | ゼンユウガリパー |   |   |   |       |       |   |   | ▲ | ----- |    |    |    |
|          | ヨクデル     |   |   | ■ | ===== | ■     |   |   |   |       |    |    |    |
| (以降繰り返し) |          |   |   |   |       |       |   |   |   |       |    |    |    |

## 【輪ぎく】

### 高品質で安定した生産体制の整備

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 6.2            | 6.8    | 6.8          | 6.8           | 1.1          |
| 出荷量 (千本)  | 1,701.0        | 1871.1 | 1871.1       | 1871.1        | 1.1          |
| 産出額 (千万円) | 11.8           | 13.0   | 13.0         | 13.0          | 1.1          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・補助事業等を活用した鉄骨ハウス等が多く、施設化率が89%と高い地域である。震災後、設立した法人においては、きく部門を導入し周年生産を開始した。
- ・切り花単価の低迷や燃油高騰の影響により収益性が低下しているため、冬季はその他の切り花か、野菜栽培への転換が見られる。

##### ○流通・販売面

- ・直売施設等での販売がメインとなっており、切り花単価の低迷等から市場・共販出荷はごく一部となっている。

##### ○課題等

- ・稲作との複合による小規模経営が多く、高齢化等により生産者数が減少している。
- ・土壌病害や塩類集積等による連作障害により生産性の低下がみられる。
- ・販売形態が個別中心となっているため、「産地」としてのまとまった活動が少なくなっている。

#### 3 具体的振興策

- 経営の効率化と産地の維持
- 環境にやさしい農業の推進
- 直売や契約販売など多様な需要に対応した販売力の強化

#### 4 主な担い手(部会)等

- いしのまき農業協同組合花卉部会

## 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                   |   |
|--------|-------------------|---|
| 生産・技術面 | 経営の効率化と産地の維持      | 販売環境とリンクした生産体制の推進<br>産地活動の強化・リーダーの育成          |
|        | 軽労化, 省力化など作業環境の改善 | 低温開花性品種の導入<br>複合環境制御や養液土耕を活用した栽培管理の省力化        |
|        | 環境にやさしい農業の推進      | 作型に応じた適品種の選定, 購入苗等を利用した計画生産の推進                |
|        |                   | 土壌分析に基づく肥培管理, 蒸気消毒の実施, 耕種的防除法など環境に配慮した生産技術の導入 |
| 流通・販売面 | 多様な販売チャネルの確立      | 産地直売や実需者との契約販売等多様な販売チャネルへの対応                  |

表1 主な作型と栽培品種

▲定植 ■収穫

| 作型            | 主な品種名   | 月 |   |     |   |   |   |   |   |   |    |    |     |
|---------------|---------|---|---|-----|---|---|---|---|---|---|----|----|-----|
|               |         | 1 | 2 | 3   | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12  |
| 3月出荷          | 特馬(白)   |   |   |     |   |   |   |   |   |   |    |    | ▲   |
|               | 神馬(白)   |   |   | ■=■ |   |   |   |   |   |   |    |    |     |
| 8月出荷          | 精興光玉(黄) |   |   |     | ▲ |   |   |   |   |   |    |    | ■=■ |
|               | 精興栄山(黄) |   |   |     |   |   |   |   |   |   |    |    |     |
| 9月出荷          | 精の一世(黄) |   |   |     |   | ▲ |   |   |   |   |    |    | ■   |
| 11月以降<br>年内出荷 |         |   |   |     |   |   |   |   |   | ▲ |    |    | ■   |



## 【鉢ものの類・花壇用苗ものの類】

消費者ニーズに対応した品目の導入と品質の安定化による生産体制の確立

### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画)  | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|---------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 2.7            | 2.7     | 2.9          | 3.0           | 1.1          |
| 出荷量 (千鉢)  | 1,520.0        | 1,520.0 | 1,660.4      | 1,800.8       | 1.2          |
| 産出額 (千万円) | 11.1           | 11.1    | 12.5         | 13.3          | 1.2          |

### 2 現状と課題

#### ○生産・経営面

- ・鉢ものの類にプラスして花壇用苗ものの類を組み合わせた経営が多く、一部では施設栽培と露地栽培を組み合わせた苗もの生産も行われている。
- ・新規参入により就農し、経営を開始している事例もある。

#### ○流通・販売面

- ・仙台市場を中心に京浜、東北など各地の市場へ出荷されているが、近年はホームセンター等との契約取引の割合も増加している。
- ・個別出荷が主体であるが、一部ではグループによる出荷体制もみられる。

#### ○課題等

- ・販売単価の低迷と資材費や重油高騰の影響で、経営環境は年々厳しくなっている。
- ・販売の主体は鉢サイズの小さいものに移行しているため、出荷量が増加している。

### 3 具体的振興策

- 経営感覚に優れた多様な担い手の確保
- 生産力と品質を高める農業技術の高度化
- 環境にやさしい農業の推進
- 多様な需要に対応した販売力の強化

### 4 主な担い手(部会)等

- 生産者数 10名

5 具体的取り組み内容

| 項目     |                    |   |
|--------|--------------------|---|
| 生産・技術面 | 経営感覚に優れた多様な担い手の確保  | 経営規模の維持と雇用確保による専作経営の推進<br>経営計画に基づく農業制度資金等を活用した施設等の整備支援                                  |
|        | 生産力と品質を高める農業技術の高度化 | 難防除病害虫の発生活長把握と適期防除の推進<br>新品目や新品種等導入支援<br>移動ベンチ, ポットイングマシンなど導入による省力化・生産性の向上              |
|        | 環境にやさしい農業の推進       | 土壌分析に基づく適正施肥, 防虫ネット等利用による環境に配慮した栽培技術の導入   |
|        | 流通・販売面             | 多様な需要に対応した販売力の強化<br>情報発信による直接販売, 契約取引, 予約相対取引等による安定した単価形成の推進<br>顧客ニーズに対応した品種や多様な出荷形態の検討 |

表1 主な作型

●播種 ▲移植 ■出荷

|         |         | 月  |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
|---------|---------|--|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
|         |         | 1  | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 鉢もの     | シクラメン   | ●-----▲-----▲-----■-----■                                  |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
|         | ミニシクラメン | ●-----●-----▲-----■-----■                                  |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| 花壇用苗もの類 | 秋出し     | ●-----▲-----■-----■  |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
|         | 春出し     | ●-----▲-----■-----■<br>-----■-----■<br>●-----▲-----■-----■ |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |

## 【ガーベラ】

需要動向に対応した品種構成による産地競争力の高位安定化

### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画)  | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|---------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 1.1            | 1.1     | 1.1          | 1.1           | 1.0          |
| 出荷量 (千本)  | 4,239.0        | 4,239.0 | 4,662.9      | 4,662.9       | 1.1          |
| 産出額 (千万円) | 9.3            | 10.2    | 11.2         | 12.1          | 1.3          |

### 2 現状と課題

#### ○生産・経営面

- ・東北唯一の産地であり、県単補助事業で導入した鉄骨ハウスでの施設栽培で施設化率は100%である。
- ・平成6年の栽培開始後、一時は株枯れ症状により生産が落ち込んだものの、新たな栽培法を確立し、産地として20年間維持している。

#### ○流通・販売面

- ・東京市場への農協系統共選共販出荷が中心である。
- ・新たな販売方法として、インターネット販売や生花店からの直接注文にも対応している。

#### ○課題等

- ・栽培面積が平成11年以降増加しておらず産地としての拡大がみられない。
- ・周年施設栽培のため、難防除害虫の発生が多く防除の徹底が難しい。

### 3 具体的振興策

- 生産力と品質を高める農業技術の高度化
- 環境にやさしい農業の推進
- 多様な需要に対応した販売力の強化
- 全国産地と連携した販売戦略の展開

### 4 主な担い手(部会)等

- JAいしのまき桃生ガーベラ部会

## 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                    |  |   |
|--------|--------------------|--|---|
| 生産・技術面 | 生産力と品質を高める農業技術の高度化 | 適正な育苗, 適期定植による株の充実推進<br>適正な養液管理による生産性の向上<br>耕種的防除による病害虫防除技術の検討 |   |
|        | 環境に配慮した農業の推進       | 原油価格高騰に対応した暖房装置や省エネルギー対策の推進<br>施設内環境の改善による病害虫発生抑制              |   |
|        | 流通・販売面             | 多様な需要に対応した販売力の強化   | 産地からの情報発信による認知度向上<br>産地直売や量販店との契約取引など多様な販売チャネルの構築 |
|        |                    | 全国産地と連携した販売戦略の展開   | 主産県と連携した産地フェア等によるガーベラのイメージアップ推進                   |

表1 作型

◎育苗 ▲定植 ■収穫

| 作型  | 月 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |   |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|
|     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |   |
| 1年目 |   |   | ◎ |   | ▲ |   | ■ |   |   |    |    |    |   |
| 2年目 | ■ |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | ■ |
| 3年目 |   |   |   | ■ |   |   |   |   |   |    |    |    |   |
|     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | ■ |
|     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |   |

## 【ぶどう】

### 直売所出荷を中心としたぶどうの生産拡大

#### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 4.2            | 4.7    | 5.2          | 5.8           | 1.4          |
| 出荷量 (t)   | 8.2            | 9.3    | 11.3         | 14.2          | 1.7          |
| 産出額 (千万円) | 0.3            | 0.4    | 0.7          | 1.0           | 3.3          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・平成28年度以降JAいしのまきの補助事業等により水稻育苗ハウスなどに新植する生産者が若干ながら増加しており、令和2年度以降結果樹齢を迎えている。
- ・高収益が見込める「シャインマスカット」を新規に植栽する動きがある。
- ・ジベレリン処理による無核化を行っている生産者もある程度いるものの、処理ステージの見極めが甘く、有核で販売されることがある。
- ・年に2回JA主催で研修会を開催しており、毎回30名程度の参加があるなど技術習得に熱心な生産者も多い。

##### ○流通・販売面

- ・各生産者はJAの直売所等で販売をしているが、生産規模が小さいため販売額は少ない。

##### ○課題等

- ・生産者の多くは栽培経験が浅く、基本的な技術習得が必要である。
- ・各生産者の栽培面積が少なく、経営の一部門として位置づけられていない。
- ・通常では販売できないレベルの果実が販売されることがある。

#### 3 具体的振興策

##### ○担い手の栽培管理技術向上

##### ○農協と連携した新規栽培者の掘り起こしと産地化誘導

##### ○大規模土地利用型農業法人に対する高収益作物としての新規導入推進

##### ○研究組織の結成と研修会開催による基本技術習得の推進

#### 4 主な担い手(部会)等

○いしのまき農業協同組合直売所出荷者

○水稲育苗ハウスの有効利用を指向する土地利用型農業法人

#### 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                        |   |
|--------|------------------------|---|
| 生産・技術面 | 担い手の栽培管理技術向上           | 農協直売出荷者等新規栽培者の基礎的栽培技術の向上<br>研究組織の結成と定期的な研修会の開催                    |
|        | 農協と連携した新規栽培者の掘り起こし     | いしのまき農業協同組合と連携した, 新規栽培者の掘り起こしや産地化の推進                              |
|        | 大規模土地利用型農業法人に対する新規作付誘導 | 水稲育苗ハウスへの新規植栽誘導   |
| 流通販売面  | 販売果実の品質向上              | 品質に応じた価格設定<br>房形不良果のカップ販売等(房で販売するのではなく、果粒をカップに入れて販売)の推進による可販果率の向上 |

表1 作型

●定植 ▼剪定 ■収穫

|       | 品種 | 月 |   |   |   |       |   |   |   |   |    |    |    |        |        |        |
|-------|----|---|---|---|---|-------|---|---|---|---|----|----|----|--------|--------|--------|
|       |    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5     | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |        |        |        |
| 1年目   |    |   |   |   | ● | ----- |   |   |   |   |    |    | ▼  | =====▼ |        |        |
| 2年目   |    |   |   |   |   |       |   |   |   |   |    |    |    | ▼      | =====▼ |        |
| 3年目以降 |    |   |   |   |   |       |   |   |   |   |    |    | ■  | =====■ | ▼      | =====▼ |

## 【いちじく】

栽培技術の向上と立地条件を活かした地域振興への貢献

### 1 年次別推進目標

| 項目        | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-----------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 作付面積 (ha) | 10.7           | 11.0   | 11.0         | 11.0          | 1.0          |
| 出荷量 (t)   | 20.0           | 30.0   | 33.0         | 38.0          | 1.9          |
| 産出額 (千万円) | 0.7            | 0.9    | 1.3          | 1.6           | 2.3          |

### 2 現状と課題

#### ○生産・経営面

- ・河北地区に栽培技術の高い生産者が1戸有り露地で「フルンスウィック」、施設(無加温)で「パナーネ」、「榊井ドーフィン」を栽培している。栽培面積は合わせて45aとなっている。
- ・農協では平成26年と27年に新規に果樹を植栽する直売所出荷者を対象に苗木導入の補助を行っており、わずかではあるが栽培面積が増加している。
- ・東松島市宮戸里浜地区で平成27年4月に新たな担い手となる奥松島果樹生産組合「いちじくの里」を結成し、東日本大震災の津波被災農地で基盤整備を行ったほ場に平成28年から29年にかけて「フルンスウィック」約1.5haを新植した。

#### ○流通・販売面

- ・直売所出荷者、河北の生産者については農協の直売所等で完売することが可能である。
- ・奥松島果樹生産組合についてはほぼ市場出荷となっており、直売はほとんどない。
- ・奥松島果樹生産組合を対象に平成28年から30年までの3年間、「みやぎ食と農の県民条例推進圏域重点プロジェクト」を実施、いちじくを使ったパウンドケーキの開発を行っており、東松島市のジュリアンで販売されている。
- ・みやぎ生協からは消費者との交流も含めた産消直結の取り組みである「めぐみ野」への参加要請がある。

#### ○課題等

- ・河北地区の生産者以外は栽培経験が浅く、技術の向上が必要である。
- ・市場出荷を開始して間もなく、出荷量が少ないため、産地としての知名度はいまのところ無いが、今後の出荷量の増加に合わせ知名度向上を図る必要がある。
- ・全国的にも有名な観光地に立地しているものの、これまで消費者との交流や観光と連携したイベント等を開催したことは無い。

### 3 具体的振興策

- 担い手の栽培管理技術向上
- 農協と連携した新規栽培者の掘り起こしと産地化誘導
- 立地条件を活かした観光と連動した地域振興の推進

### 4 主な担い手(部会)等

- 奥松島果樹生産組合「いちじくの里」
- 河北地区生産者
- いしのまき農業協同組合直売所出荷者

### 5 具体的取り組み内容

| 項目     |                             |   |
|--------|-----------------------------|---|
| 生産・技術面 | 担い手の栽培管理技術向上                | 奥松島果樹生産組合、農協直売出荷者等新規栽培者の基礎的栽培技術の向上  |
|        | 農協と連携した新規栽培者の掘り起こし          | いしのまき農業協同組合と連携した、新規栽培者の掘り起こしや産地化の推進   |
| 流通販売面  | 市場出荷をメインとした安定供給と産地としての知名度向上 | 市場へ高品質・一定量の安定した出荷を行い、産地としての知名度向上を図る。<br>みやぎ生協の取り組み「めぐみ野」への参加や地元直売所への出荷による消費者との交流の促進 |
| その他    | 観光と連携した地域振興への貢献             | 消費者との交流イベントの開催(宮戸)  |

表1 作型

●定植 ▼剪定 ■収穫

|       | 品種           | 月                             |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
|-------|--------------|-------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
|       |              | 1                             | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 1年目   | ブルンス<br>ウィック | ●-----                        |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| 2年目   |              | -----▼=====▼-----             |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| 3年目以降 |              | -----▼=====▼-----■=====■----- |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |



## 【しいたけ】

### 高品質安定生産による産地の維持と地位向上

#### 1 年次別推進目標

| 項目          | 現状(H30)<br>(A) | R3(計画) | R5<br>(中間評価) | 目標(R7)<br>(B) | 伸び率<br>(B/A) |
|-------------|----------------|--------|--------------|---------------|--------------|
| 出荷量(原木) (t) | 0.8            | 1.0    | 1.2          | 1.4           | 1.7          |
| 出荷量(菌床) (t) | 12.1           | 12.2   | 12.3         | 12.4          | 1.0          |
| 産出額 (千万円)   | 1.2            | 1.2    | 1.2          | 1.3           | 1.0          |

#### 2 現状と課題

##### ○生産・経営面

- ・しいたけの生産量は12.9tで、内訳は原木栽培が0.8t、菌床栽培が12.1tとなっている。
- ・原木の露地栽培は東日本大震災による放射性物質汚染被害の影響で出荷が制限され生産量が落ち込んでいる。施設栽培では原木を他県から購入して確保している状況であり、経費がかさみ経営は厳しい。
- ・菌床栽培は東日本大震災後に風評被害等で一時生産量が落ち込んだが、その後回復傾向にある。

##### ○流通・販売面

- ・原木栽培は、主に直売所等へのお荷となっている。
- ・菌床栽培は、直売所お荷が最も多く、次いで個人お荷、農協お荷の順となっている。

##### ○課題等

- ・原木栽培(露地):生産再開に向けたお荷制限解除手続
- ・原木栽培(施設):安全な他県産原木の安定確保及び自県産原木の使用再開
- ・菌床栽培:安全な生産資材の安定確保及び品質向上によるブランド化

#### 3 具体的振興策

- お荷制限解除に向けた試験栽培の実施と関係機関による協議会設立
- 補助制度を活用した他県産原木確保に係る支援と自県産原木の使用再開に向けた試験研究
- 補助制度を活用した安全な生産資材の確保と品質向上に向けた生産管理の徹底

#### 4 主な担い手(部会)等

- 個人(原木栽培), 障害者福祉施設(菌床栽培)

## 5 具体的取り組み内容

| 項目     |           |                                 |
|--------|-----------|---------------------------------|
| 生産・技術面 | 担い手の確保    | 新規参入者・規模拡大生産者の掘り起こし             |
|        | 生産機械・施設整備 | 各種補助制度, 制度資金の活用                 |
|        | 生産技術向上    | 品質の向上と安定に向けた生産管理技術の指導           |
|        | 生産資材確保    | 各種補助制度の活用, 県内資材の使用再開に向けた試験研究    |
| 流通・販売面 | ブランド化推進   | 品質管理及び産地表示の徹底                   |
|        | 有利販売対策    | 市場流通調査の実施, 包装形態及び出荷規格の検討        |
|        | 商品開発      | 消費者ニーズ調査の実施                     |
|        | 消費拡大      | バイヤーを対象とした商談会等への出品, イベント等での対面販売 |
| その他    | 放射性物質対策   | 適期の放射性物質検査実施による安全管理と消費者に対する情報提供 |

表1 主な作型と月別販売実績(H30年度)

●植菌 ▲伏込(原木) ■収穫

| 作型     | 月                              |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|--------|--------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|        | 1                              | 2   | 3   | 4   | 5   | 6   | 7   | 8   | 9   | 10  | 11  | 12  |     |
| 原木栽培   | ●-----●▲-----▲■-----<br>=====■ |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 出荷量(t) | 0.8                            |     | 0.6 |     |     |     | 0.2 |     |     |     |     |     |     |
| 菌床栽培   | (周年で栽培・生産)                     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 出荷量(t) | 12.9                           | 0.7 | 0.8 | 0.9 | 1.2 | 1.4 | 1.3 | 1.9 | 0.8 | 0.9 | 1.3 | 1.4 | 1.3 |

品目別アクションプランの「1 年次別推進目標 現状（H30）」の出典について

野菜 作付面積：出荷量を令和2年度被害算定基準の単収で割戻した推計面積  
出 荷 量：いしのまき農業協同組合平成30年度販売実績  
産 出 額：いしのまき農業協同組合平成30年度販売実績

※ いずれもパプリカを除く

（パプリカ）作付面積，産出額：平成30年度現地実績

出荷量：作付面積と平成30年度現地単収からの推計量

花き 作付面積：平成30年度花き産業振興総合調査  
出 荷 量：平成30年度花き産業振興総合調査  
産 出 額：平成30年度花き産業振興総合調査

果樹 作付面積：平成30年産特産果樹生産動態等調査  
出 荷 量：（いちじく）作付面積と平成30年度現地単収からの推計量  
（ぶどう）平成30年産特産果樹生産動態等調査からの推計量  
産 出 額：出荷量と現地販売単価からの推計額

特用林産 出 荷 量：平成30年度特用林産物需給動態調査  
産 出 額：平成30年度特用林産物需給動態調査